

大阪

地域面3ページ

おおさか支局

〒530-8251 (住所不要)

毎日新聞社会部おおさか支局

TEL06・6346・8443

FAX06・6346・8444

メールはat-osaka@mainichi.co.jp
読者の皆さんの取り上げてほしいテーマなど、お寄せください。

【購読お申し込み】

フリーダイヤル0120-468012

知的、精神障がい者の自立へ

働いて生きることへ。就職の前につなぎの障がい当事者の、その目を設け進路選択の幅をを広げようという試みだ。共生が支援政策の理念に位置づきつつも、その実際は障壁だらけだ。特に、知的障がい者の就職や自立支援の事業所だ。重く、生活は多くが公的援助に頼るしかない実態だ。国は知的障がい者の社会進出に向け就労移行支援を進めている。

共に生きる トロソ サルダ

더불어 살다

「パズルをしますか」「パズルをします」「それで片付けてください」「それでは片付けてください」。ジョブコーチ(職場適応援助者)の言葉を井上さんはそのまま返すことしかできない。軽作業訓練のあとのパズル遊びが楽しみなのだという。

ここでは企業などと連携して現場実習に力を注ぐ。知的障がい者の特別枠を持つ府立高校を卒業した松本果奈

傷つく心のささえを

就労移行に向け続く模索

さん(19)は1カ月の実習をやり終えた。電話の応対、封筒ののり付けなどの作業を実際に体験し、「最初不安だったが、とても楽しかった」と振り返る。就労移行支援を経た



自立支援のための訓練SST。ある場面を想定し、自分ならどう取り組むかを話し合った。コスモスの特徴的な取り組みのひとつ

西田信太朗さん(22)は支援学校から一度スーパージョブに就職した。しかし、そこで同僚から心無い言葉を浴びせかけられた経験を持つ。「仕事はあきらめていた。でも、コスモスで学んで就職できた」と語った。仕事を楽しんでいる2人は時々コスモスに来て、後輩たちのよい刺激になっているという。

コスモスの特徴は心理支援にある。SST(ソーシャルスキルトレーニング)を取り入れ、自分の長短所理解や人間関係の結び方。また、差別で傷ついた心の回復にも重点を置く。1年前からは精神障がいを持つ人々の自立訓練も開始した。通所して1年になるという40代の女性は「少しずつ自信を取り戻してきたし、授業に頼っていた自分が今変わっている」と述べ、「自分もいつか支援する側になりたい」と社会復帰への意欲を話した。

代表の伊藤繁さん自らも視覚障がいを持つ。「株式会社にしな」と資金調達が難しいと設立当時を振り返り、「働いて自己実現したい当事者は多いが、障がい者の就労意欲が正しく把握される。企業開拓や就職後の持続的な見守り、心の支えとなる居場所づくりなど、働いて生きる、この基本に立ち返ったコスモスの試みはさらに続く。」

大阪コリアンの目

135

文と写真

金光敏



1971年、大阪市生野区生まれ。在日コリアン3世。大阪市立中学校の民族学級講師などを経て、現在、特定非営利活動法人・コリアNGOセンター事務局長。教育コーディネーターとして外国人児童生徒の支援などに携わる。